

数字で見る 日本の子どもたちにおきていること

* 引用数値の年度や時期は最下部の出典欄よりご確認ください

ひとり親世帯の貧困^{*1}

ひとり親世帯の約半数が貧困

約**48%**



子どもの貧困^{*1}

7人に一人の子どもが相対的貧困

貧困ライン
127万円

等価可処分所得
の中央値の半分

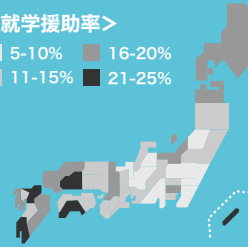
**7人に
ひとり**



就学援助^{*2}

<就学援助率>

■ 5-10% ■ 16-20%
■ 11-15% ■ 21-25%



約**136万人**
(小・中)

<認知件数>

約**51.7万件**
(小・中・高・特支)

いじめ^{*3}

<発見のきっかけ>

アンケート調査
など学校の取組

約**55%**



本人からの
訴え

約**18%**



学級担任
が発見

約**10%**



社会的養護^{*4}

生みの親と暮らせない子どもを社会的に養育する

<社会的養護下の子ども>



約**4.5万人**

<背景>



約**6割**



親の病気

経済的理由

不登校^{*3}

小学校

約**6.3万人**

中学校

約**13.2万人**

高等学校

約**4.3万人**

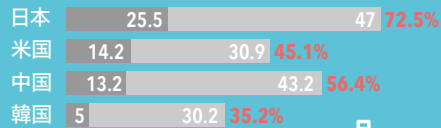


年間**30日**
以上欠席



自己肯定感^{*5}

<自分はダメな人間だと思うことがある>



■ とてもそう思う (%)

■ まあそう思う (%)

* 高校生



大学等進学率^{*7}

専修学校等含む

ひとり親
家庭
約**58.6%**

生活保護
世帯
約**35.3%**

児童養護
施設出身
約**27.1%**

全世帯
約**73%**



教育格差^{*6}

<家庭の社会・経済的背景 (SES^{*}) と学力の関係>

* 家庭所得、親の学歴など、家庭の経済資本、文化資本の指標



それぞれの数字はそれ単体だけで子どもたちの状況を判断できるものではないため、詳細は以下の出典も併せてご確認ください。

2021.02.11 更新

出典

*1= 厚生労働省, 2019年, 国民生活基礎調査

*2= 文部科学省, 令和2・元年度就学援助実施状況調査結果

*3= 文部科学省, 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

*4= 厚生労働省, 社会的養護の現状について (参考資料) 平成29年12月

*5= 国立青少年教育振興機構, 平成27年8月, 高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国と比較-

*6= 文部科学省 国立大学法人お茶の水女子大学, 平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究

*7= 内閣府, 平成30年5月, 第6回子供の貧困対策に関する有識者会議, 資料1子供の貧困に関する指標の推移